

係長等特別研修を終えて

会長 宮廻甫允

変化する経営環境の下で、職員の資質向上のための研修が重要性を増している。県においては、平成 24 年度から係長等特別研修が実施され、講師として関わることとなった。研修では、九州大学等の「地域政策デザイナー養成講座」がメインであり、私の役目は講座での知見を活用して、受講生が立案する地域課題解決のための政策シミュレーションに対して助言することにあつた。

対象が係長等ということもあり、係長は管理者として業務統制を担うこと、管理とは個人の力を組織の力に合成していく行為であること、仕事を任せても、任せっぱなしにしないことといった話をした。

また、業務統制は戦略計画を起点に、管理統制を経て業務統制へ至る計画と統制の反復・循環するシステムの末端に位置することから、管理の問題を管理システム全体の中で考えることが重要であること、さらに業務統制、管理統制、戦略計画は、階層的な管理における上下関係があることは当然であるが、それだけでなく管理内容が質的に異なることに注意すべきことなども説明した。

係長の遂行する業務統制は、確実に特定の業務が効果的かつ効率的に実行されるようにする過程とされている。効果的とは目的の達成度のみを問題にすることであり、効率的とは目的達成のために失われたものを考慮することである。目的の達成は組織にとってきわめて重要であるとはいえ、目的追求活動に伴う犠牲や損失にも配慮することが必要であるということである。

現在、進行中の働き方改革においても、生産性向上という効果的であることが評価される面と、就業機会の拡大や意欲・能力を発揮できる環境づくりといった効率的であることが問題となる面があるように思われる。組織活動が長期に渡って継続的に行われる場合には、どのような組織においても、バランスの取れた効果的かつ効率的な管理が不可欠であるということである。

研修は平成 24 年度に 16 名で始まり、25 年度から 8 名となった。総仕上げとしての政策シミュレーションは、当初、各人で行うこととしていた。しかし、実際の仕事は組織的に行われることもあり、4 年目の 27 年度から二つにグループ分けし、グループごとに政策シミュレーションをするように変更した。

7 年間に 64 名の職員の方々が受講されたという。個人の資質向上が組織力の基礎ではあるが、個人の力を組織の力に高めていく管理（マネジメント）が大きな意味を持つことにも注目していただきたい。私の目指すべき管理者像は、「あつてなきがごとくして、なきがごとくある」というような管理者である。この研修は、私の信頼する鹿児島大学教授に引き継がれることとなった。係長等特別研修のいっそうの発展を期待するところである。